

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 28 年 4 月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、売上は横ばいの状況が続いている

○製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いている。中国経済の減速や熊本地震の影響により、輸送用機械関連で一部弱含みも見られるが、受注や生産は概ね横ばいで推移している。ただし、先の突発的な事故や自然災害に対する今後の影響が懸念されている。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部でみられる。

【個人消費】消費の回復状況に頭打ちの感が見られる

○個人消費は、雇用環境の改善により、売上が前年を上回るまでに回復している小売店も見受けられるが、実質賃金はマイナス推移していることから節約志向が続き、消費の回復状況は鈍く弱含んでいる。

【観光】インバウンドは好調を維持

○観光では、宿泊施設、観光入込客ともに、インバウンドの増加が大きく寄与し、前年比で大きく増加している。

【雇用】一部の業界において人手不足が発生している

○雇用面では、大学・短大・高校卒業者の就職内定率や有効求人倍率は、右肩上がりでも推移しており、総じて県内の雇用情勢は回復基調にあるものの、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。

【設備投資】投資実績は減少傾向も、投資意欲は変わらず

○設備投資の目的のうち、今まで据え置かれていた工場・機械等の「補修・更新」が増加し、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といった前向きな設備投資が減少。足元、工作機械受注が減少傾向にあり、今後の影響が懸念される。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は、期末要因もあり 6 ヶ月ぶりに増加に転じるとともに、借入難易度も緩やかながら着実に改善している。